

文学塾申し込み方法

受付開始 平成30年1月9日(火)より

所定の申し込み用紙に必要事項を記入し、郵送、メール、FAXいずれかの方法で提出してください。
複数名分まとめた申し込みも可能です。

申し込み先

〒150-8440
東京都渋谷区東4-10-28 國學院大學文学部資料室付 文学塾事務局宛
E-mail: bun_siryo@kokugakuin.ac.jp / Fax: 03-5466-4814
※メールで送信する場合、件名を「文学塾受講申込」としてください)

- ※1講座から申し込みできます(両日受講・複数講座受講も可)。
- ※各講座の定員に達し次第、募集を締め切ります(大学HPでお知らせします)。
- ※中学校・高校の先生方の受講も歓迎します。
- ※所定の申し込み用紙は、大学ホームページからダウンロードできます。
- ※申し込みを受けつけた方には、追って受講証をお送りします。

【受講にあたっての注意事項】

- 1時限、2時限を連続して受講する場合、昼食を各自でご用意ください(昼休み 12:00~12:50)。
- ノート、筆記用具を持参してください。

個人情報の取り扱いについて

國學院大學では、「個人情報の保護に関する法律」を遵守し、個人情報の適正な取り扱いに努め、安全管理のために必要な措置を講じています。
文学塾受講申し込みにあたって、お知らせいただいた氏名、住所その他の個人情報は、國學院大學文学部において、文学塾受講に関する管理、連絡および手続き、各種案内とこれに付随する事項を行うために利用するものとします(この利用目的の範囲を超えて使用したり、本人の同意を得ずに第三者に提供することはありません)。
なお、個人情報の取り扱いの詳細については、大学ホームページをご覧ください。

会場案内



- 渋谷駅(JR山手線・地下鉄・京王井の頭線・東急各線)から徒歩約13分
- 渋谷駅JR新南口から徒歩約10分
- 都営バス(渋谷駅東口54番のりば) 学03日赤医療センター前行「国学院大学前」下車(運賃180円・IC175円)

渋谷キャンパス配置図



お問い合わせ先 國學院大學文学部資料室

〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28 TEL.03(5466)4813
E-mail bun_siryo@kokugakuin.ac.jp



國學院大學

文学塾

募集案内

平成30年(2018)3月24日(土)・25日(日)開催

対象

高校生

会場

國學院大學 渋谷キャンパス

※先生方もぜひぜひいっしょにどうぞ

120周年記念1号館2階



申込スタート



きてね!

参加無料 *事前申込制

もっと日本を。もっと世界へ。



國學院大學

好きこそものの上手なれ

國學院大學文学塾とは…

國學院大學文学部が主催する高校生のための新たな学びの場です。
伝統ある國學院大學文学部ならではの専門性の高い内容で講義を行い、「もっと深く学びたい」「もっといろいろなことを知りたい」という知的好奇心の強い皆さんの期待に応えます。
今年度は、3月24日・25日の2日間に渡り、文学部の5学科に所属する専任教員が3講座ずつ講義を行います。
好きな学科の講義をすべて受けてもよし、興味のある講義をつまみ食いしてもよし、学問の最先端を、ぜひ体験してください。

國學院大學文学部とは…

國學院大學文学部は、日本文学科・中国文学科・外国語文化学科・史学科・哲学科の5学科で構成されています。明治15年(1882年)創設の皇典講究所を母体とし、国史、国文、国法を専修する機関として出発した國學院大學135年の歴史と伝統を直接に継承する学部です。日本の文化や歴史に対する知見をもとに、諸外国の言語・文化、歴史、哲学について深く広く学ぶことができます。

メッセージ

たとえばプロ・アマ問わずにスポーツ選手が「好きだから続けられた」と話したりしますね。では、学問研究の世界ではどうでしょうか。実は同じなのです。なぜ好きなかと問われたら困るかもしれませんが、好きだから出来た、好きじゃなければ出来ないという気持ちが学者、研究者のころの中心には必ずあるのです。これが好き、を前提にして喜怒哀楽が積み重なっていくのなら、この人生に悔いはないと思いませんか。

あなたは今の学びのなかでなにが好きですか。その教科書のなかのどこが好きですか。いままで受けてきた授業のどこかに魅力を感じませんでしたか。漠然とした気持ちでいいのです。そのあなたの気持ちの先に光っているものが文学塾できっと見つかります。

文学部の学問のなかに、あなたの宝石があなたに見つけられることを待っています。

文学部長 石川 則夫
専門分野:日本近現代文学／主に大正・昭和の小説・評論



日本文学科

120周年記念1号館2階

開講日
3/24(土)

日本文学科は、古代から現代に至る日本の文学・言語・風俗習慣・儀礼などの研究を通して日本文化を総合的・体系的にとらえていくとともに、日本人の精神や文化に対する学びが、今を生きる私たちの生や創造の指針となることを目指しています。
國學院大學の日本文学科には日本文学専攻、日本語学専攻、伝承文学専攻の3専攻があります。
今回の講義では、「羅生門」という統一テーマを設け、それぞれの分野からのアプローチを試みます。

統一テーマ:『羅生門』徹底〈解体〉—近代から古典まで—

1 時限
10:30～12:00

テーマ 『羅生門』の表現を考える

井上明芳 准教授 専門分野:近現代文学／主に昭和期の文学

今回取り上げる作品は芥川龍之介『羅生門』です。日本文学研究の視点をもってこの小説を〈解体〉します。まず、現在高校教材としても読まれている完成形に至る書き換えを取り上げて、読解できる内容が変わっていく様相を取り上げます。その上で完成形『羅生門』の構造的な把握を試みます。エゴイズムといったテーマの把握だけでは終わらない『羅生門』の表現の豊かさを討究します。

2 時限
12:50～14:20

テーマ 羅生門、鬼から知るか?蛇から知るか?

飯倉義之 准教授 専門分野:口承文芸研究／主に都市伝説・世間話の研究

民俗学の方法を文学研究に応用する「伝承文学」の視点から『羅生門』を〈解体〉します。羅生門は鬼が出る平安京の心霊スポットだし、そもそも心霊スポットって何だろう? また、蛇の干物を魚と偽って売りさばいていた女の話は、現代の都市伝説とも共通の話題なのです。平成と平安をつなぐ「伝承」を知り、そして一緒に考えましょう。

3 時限
14:30～16:00

テーマ 今昔物語集への日本語学的アプローチ

吉田永弘 教授 専門分野:日本語史／主に中古・中世を中心とした語法や語彙の研究

日本語学の立場から、芥川龍之介の『羅生門』の出典となった『今昔物語集』の説話を〈解体〉します。とりわけ、そこに書かれた文字や言葉にこだわって説話を読んでいきます。現代の我々は興味があれば手軽に古典を読むことができますが、その背景には多くの学問の積み重ねがあります。この講義では、古典を読むために必要な学問の世界への入り口を紹介します。

外国語文化学科

開講日
3/24(土)

言語を学ばなければ、文化を理解することはできず、文化を知らなければ、言語を使いこなすことはできません。外国語文化学科では、言語と文化を総合的に学ぶことで、日本文化と外国文化の違いや共通性を理解し、異文化と交流しながら、その架け橋となることのできるグローバルな視野を持った人材を育成しています。

今回の講義では、文化の多様性と変容の過程を学び、日本人の苦手な他言語習得の問題にも踏み込みます。

1時限

10:30～12:00

テーマ 中国南方民族の言語と神話

黒澤直道 教授 専門分野:中国語・中国の文化と民族／ナシ族の言語と文化

中国は、政府に認められただけでも56の民族を擁する多民族国家である。中でも南部は特に民族数の多い地域であり、その多様性は複雑を極める。この授業では、20年にわたり当地域のフィールドワークを続ける講師から、言語や神話を中心にその多様性の一端を紹介する。

2時限

12:50～14:20

テーマ 母国語話者の謎

出世直衛 教授 専門分野:言語学・音声学／記号と言語

言語は民族集団と密接に結びついているので、民族的アイデンティティーの支柱的役割を果たす。このため、外国語ベタが命にかかわる場合すらありうる。この言語は通常のヒトは「母国語」のみの獲得となり、その後の言語は学習・勉強の域を出ないことが多い。これがいかなる理由で生じるのかを考える。

3時限

14:30～16:00

テーマ 世界を巡る釈迦伝

岩瀬由佳 教授 専門分野:比較文化学／インド・アラブ説話文学と関連文学の比較研究

インドの説話文学の中には、中東イスラーム世界を経由して西欧キリスト教世界に伝播し、受容されていったものがあります。この授業では、仏教の釈迦伝を取り上げ、その伝播過程を解説します。さらに、その中の1挿話(アレゴリー)を取り上げ、異文化にどのように受容され変容していったかを見ていく予定です。

中国文学科

開講日
3/25(日)

中国文学科は、中国古典に関する研究や教育を行うとともに、日本はもちろん世界各国に多大な影響を与える近代・現代の中国文化をもテーマにしながら、世界に通じる広い視野と豊かな人間性を備えた人材の育成を目指しています。文学だけでなく中国語の習得や中国の民俗文化への理解を促すため、複数の留学システムを用意し、学生達に「現地で学ぶ」ことを勧めています。

今回の講義では、中国の多彩な文化、精神性に触れてみてください。

1時限

10:30～12:00

テーマ 『論語』の言葉で考えよう

石本道明 教授 専門分野:中国古典文学／主に宋代文学

『論語』は、日本でもすでに1300年以上読み続けられています。その大きな理由は、「日用」つまり日常で使える指標を、孔子やその門人たちが真剣に論じているからではないでしょうか。この塾では、その『論語』の言葉から、現代でも考えるべきいくつかの問題を提示して、標準とされる考え、新しい提案、そして日本人の解釈を、解説すると共に、皆さんと考えてみたいと思っています。

2時限

12:50～14:20

テーマ 『漢書』東方朔伝を読む～中国古代の文学者の憂鬱

宮内克浩 准教授 専門分野:中国古典文学／主に漢代辞賦文学の研究

中国・漢の時代に作られた史書として、『史記』とともにその双璧をなす『漢書』の原典を、漢文訓読法を用いて読解します。漢王朝の盛時・武帝の時代に生きた東方朔という人物の伝記から彼の作品を取り上げて読みます。作品が作られた背景を探りながら、中国古代の文学者にとって作品創作の原動力となったものにどのようなものがあったのか、理解を深めます。

3時限

14:30～16:00

テーマ 中国の招魂歌と招魂儀礼

浅野春二 教授 専門分野:中国宗教文化／道教の儀礼と民間信仰の研究

招魂歌の三類型(蜃歌型・大掃除型・舞戻り型)を視点として、ヤオ(瑤)族の伝える漢字で書かれた儀礼テキスト(『招魂書』など)を読んでいきたい。それを通して、ヤオ族の招魂儀礼に表れてくる靈魂観・招魂法について考えてみたい。

史学科

史学科には、「日本史学コース」「外国史学コース」「考古学コース」「地域文化と景観コース」の4つのコースがあり、それぞれの分野で歴史研究の方法を学びながら、現代社会の諸問題を解決する視点を養います。

本学史学科ではどのコースにおいても、自らの手で史資料に触れ、自分の足で調査を行う実践的な方法を重視しています。

今回の講義でその一端に触れ、歴史をひもとく醍醐味を味わってみてください。

開講日
3/25 (日)

1 時限

10:30～12:00

テーマ 縄文時代の岩陰遺跡を発掘する

谷口康浩 教授 専門分野:先史考古学／縄文時代の社会構造、儀礼祭祀を考古学的見地から研究

群馬県居家以岩陰遺跡（縄文早期）でおこなっている発掘調査の成果を紹介しながら、先史考古学の調査研究法を解説します。縄文土器・石器の見方のほか、人骨調査法、年代測定法、植物考古学、動物考古学などの考古科学の分析法も取り上げます。時間と受講人数にもよりますが、「考古学調査法」で学生たちが実際に取り組んでいる土壌水洗選別法も実演し、植物種子などの微細遺物のサンプリングを受講生に体験してもらう予定です。

2 時限

12:50～14:20

テーマ 中国の歴史展開と地理

金子修一 教授 専門分野:中国古代史／皇帝制度に関わる諸問題や東アジア世界

中国には北の黄河と南の長江との二つの大河があります。10世紀、唐代までの中国は黄河流域の洛陽や、その上流の長安を中心に主に歴史が展開しました。しかし20世紀以降は、長江流域の上海やその南の杭州の経済活動が盛んになります。このような中国の北と南の歴史の違いは、北と南の気候風土の違いとも関係しています。本講義では、中国の南北の気候風土と歴史発展との関係について述べてみたいと思います。

3 時限

14:30～16:00

テーマ 春宮坊からみた承和の変

佐藤長門 教授 専門分野:日本古代史／日本古代王権・国家論

高校日本史の教科書・用語集では、承和の変とは皇太子恒貞親王派の伴健岑や橘逸勢らが起こした謀反事件とされる一方、権力の確立をはかった藤原良房の陰謀とも記されています。はたして事件は皇太子の側近たちによる謀反事件だったのか、あるいは藤原氏によるでっち上げ（他氏排斥事件）だったのでしょうか。その正否を皇太子の家政機関である春宮坊官人の動きから読み解いていきます。

哲学科

哲学科は、西洋哲学思想の研究を中心に、インド・中国・日本を含めた古今東西の思想や芸術を学ぶことのできる間口の広い学科です。本学の哲学科は、「哲学・倫理学コース」に加えて「美学・芸術学コース」を設置し、さまざまな芸術ジャンルの理論的考察や、美術史研究も行っています。文学塾では、ヨーロッパの歴史哲学から芸術分野での異文化融合、そして現代の心の哲学まで、哲学科らしいヴァラエティ豊かなラインナップで皆さんをお待ちしています。

開講日
3/25 (日)

1 時限

10:30～12:00

テーマ かつて、チェルノヴィッツという街があった

藤野 寛 教授 専門分野:西洋近代・現代哲学、倫理学／ドイツ現代思想

今から100年前、1918年に第一次世界大戦は終結し、オーストリア帝国は崩壊した。帝国の東の端に、チェルノヴィッツという街があった。この街はその後、ルーマニア、ソ連領となり、今日、チェルニフツィの名でウクライナに属する。ドイツ・ユダヤ文化が花開いた、今は亡き多文化共生のこの街の歴史を回想し、どっぷりとノスタルジーに耽りつつ、ヴァルター・ベンヤミン「歴史の概念について」を手がかりに歴史哲学的思弁をたくましくしてみたい。

2 時限

12:50～14:20

テーマ 19世紀ジャポニズムの時代

小池寿子 教授 専門分野:西洋美術史／死の図像学

19世紀後半にヨーロッパ、とくにフランスに渡った浮世絵は、ルネサンス以降の絵画形式から脱却し、新たな表現を求めていた芸術家たちに大きな影響を与え、「ジャポニズム」という現象を生み出した。1867年の第2回パリ万国博覧会への薩摩藩、佐賀藩の参加によってもたらされた工芸品なども拍車をかけた。印象派をはじめとする欧米の芸術家たちは日本美術のどのような点に魅了されたのか、具体的な作品を挙げて考察する。

3 時限

14:30～16:00

テーマ AIやロボットは心を持ちうるか?—「心の哲学」の授業から

金杉武司 教授 専門分野:西洋近代・現代哲学／心の哲学を中心とした分析哲学

名人に勝利した将棋ソフト、様々な質問に答える携帯アプリ、一流シェフの味を再現するロボット…。ここ数年、AI（人工知能）やロボットの世界は目覚ましい発展を遂げている。果たしてAIやロボットは心（知能や感情など）を持ちうるのか？ AIやロボットの心の可能性について考えることは、実は、私たち人間の心とはそもそも何なのかを考えることでもある。この時間では、哲学の一分野である「心の哲学」の世界を少しだけ覗いてみたい。